

大腸内視鏡

～なぜ精密検査を受けないのか～

<大腸がんと精密検査とは？>

大腸がん検診は高齢化と食生活の欧米化に伴い、かかる人が増えているがんです。割合として男性に多いのですが、女性のがん死亡原因の第一位でもあります。この大腸がんを早期発見・長期治療するための大腸がん検診（便潜血検査）が行われています。便潜血検査で陽性反応が出た場合、大腸がんがあるかどうかをより詳しく調べるために精密検査（大腸内視鏡検査）を受ける必要があります。しかし、便潜血検査で陽性反応がでて精密検査を受けない人が少なくありません。なぜ多くの人は精密検査を受診しないのでしょうか。

<なぜ精密検査を受けないのか>

ここに興味のある調査結果※¹があります。便潜血が検査が陽性であったにも関わらず精密検査を受けなかった人々に対してインタビューを行い、理由を聞いたそうです。

その理由の一つが、便潜血検査で陽性反応が出たのは痔や排便時にいきんだときの出血が原因だと思ったから、というものです。例えば普段から痔で出血している人などは、便潜血検査で陽性がでて、痔によるものだろうと考え、精密検査を受けないことが多いようです。

ある男性は便潜血検査が時によって陰性になることがあり、がんならば陰性になるはずはないと考えて、陽性反応が出て精密検査を受けていませんでした。しかし、その出血が止まらなくなって医療機関を受診してがんが見つかりました。

一方、精密検診を受けなかった理由として忙しさを挙げる人も少なくありません。精密検査受けるためには少なくとも半日程度の時間が必要になりますが、特に仕事をしている人にとって精密検査のための時間を確保するのは決して簡単なことではありません。

また、精密検査である内視鏡検査は大腸に力

メラを入れる検査方法であり、身体への負担がいくぶんかあります。以前に内視鏡検査を受けたとき大量の下剤を飲まされたことがとても辛かったため、内視鏡検査をキャンセルした人もいます。このように検査の前処置や精密検査自体に対する不安が原因となる場合もあります。

<大腸がんの症状と早期発見>

大腸がんは早期がんではほとんど症状がありませんし、進行したがんでも腹痛や血便などの症状が出るのはがんがかなり大きくなってからです。大腸がんを早期発見できれば、それだけ治療は軽くすませることもできます。開腹手術を行わずに内視鏡下の切除で事足りる場合もあります。



<精密検査の案内がきたら>

便潜血反応陽性で精密検査の案内がきた場合は、ほとんどの人は厄介なことだと思われるでしょう。しかし、その反面、症状だけに頼ってはなかなか早期に発見できない大腸がんを調べることのできる大きなチャンスだと考えたほうがいいのではないのでしょうか。便潜血陽性という検診結果に対する自分勝手な思い込み、自己判断は大変危険ですし、最近では大腸内視鏡検査の前処置や検査自体は大変安全に、身体に対する負担が少なく行えるようになってきています。せっかくの大きなチャンスを逃さないためにも、大腸がん精密検査をぜひ受けていただくことをお勧めいたします。

※1 出典：「健康と病いの語りデータベース」の「大腸ガン検診の語りウェブページ」

http://www.dipexj.org/bowelscreening/topic/fob_positive/seikenno